付属語の働きを整理する

図解と例題 ｜ 文の中での働きを確かめよう

二つの仲間を区別する

助詞と助動詞は、ほかの語に付いて働く付属語。

助詞 → 活用しない

語どうしの関係や、文のつながりなどを表す。

助動詞 → 活用する

打ち消し・過去・希望などの意味を加える。

助詞の四つの種類

格助詞 「鳥が鳴く」「本を読む」「橋で会う」
ほかの語との関係を示す。
接続助詞「雨が降るので休む」「寒いけれど出かける」
前後の事柄をつなぐ。
副助詞 「水だけ飲む」「今日も走る」
限定や添加などの意味を添える。
終助詞 「出発しますか」「いい景色だね」
文末などで疑問や念押しなどを表す。

助動詞の意味とつながり

書か／ない → 打ち消し 見／たい → 希望
読ん／だ → 過去 読み／ます → 丁寧
弟に片付け／させる → 使役 友人に助け／られる → 受け身
「ない」は動詞の未然形に、「たい」「ます」は動詞の連用形に付く。

例題で確かめる

「私は昨日、庭で花を植えた。」
は → 副助詞 で・を → 格助詞 た → 過去の助動詞
「植え／た」と一語ずつ分けて考える。

形だけで意味を決めない

「子が笑う」の「が」は格助詞。「寒いが外へ出る」の「が」は接続助詞。文の中のつながりで区別する。
「静かだ」の「だ」は形容動詞の活用語尾。すべての「だ」が助動詞なのではない。